

アネスト岩田株式会社 第79期定時株主総会 ご説明用資料

2025年6月25日（水）

午前10時 開始

■ 監査報告

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書

独立監査人の監査報告書

2025年5月15日

アネスト岩田株式会社
取締役会 御中

ふじみ監査法人

東京事務所

指定社員 公認会計士 鳥海美穂
業務執行社員指定社員 公認会計士 別所幹郎
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、アネスト岩田株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アネスト岩田株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査報告

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

■ 監査報告

会計監査人の監査報告書

独立監査人の監査報告書

2025年5月15日

アネスト岩田株式会社
取締役会 御中

ふじみ監査法人

東京事務所

指定社員 公認会計士 鳥海美穂
業務執行社員指定社員 公認会計士 別所幹郎
業務執行社員

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、アネスト岩田株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第79期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

監査報告

計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査報告

監査等委員会の監査報告書

監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2024年4月1日から2025年3月31日までの第79期事業年度における取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（業務の適正を確保するための体制）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施いたしました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、電話回線またはインターネット等を経由した手段も活用しながら、監査等委員会の補助も行う内部監査部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、内部監査部門からの監査の結果の報告を受けるとともに、子会社の取締役及び使用人等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
- ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（2005年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。なお、監査上の主要な検討事項については、会計監査人と協議を行うとともに、その監査の実施状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 業務の適正を確保するための体制に関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該業務の適正を確保するための体制に関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はなく、その整備及び運用状況については継続的な改善が図られているものと認めます。
- ④ 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針は相当であると認めます。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、第78期の定期株主総会を境に大きく変更しておりますが、いずれも当該基本方針に沿ったものであると認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 ふじみ監査法人 の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 ふじみ監査法人 の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2025年5月16日

アネスト岩田株式会社 監査等委員会

取締役 監査等委員(常勤) 武田 克己 ㊞
社外取締役 監査等委員 松木 和道 ㊞
社外取締役 監査等委員 大橋 玲子 ㊞
社外取締役 監査等委員 白井 裕子 ㊞

(注) 監査等委員 松木和道、大橋玲子 及び 白井裕子は、会社法 第2条 第15号及び第331条 第6項 に規定する社外取締役であります。

以 上

1. 第79期 (2024年4月1日から2025年3月31日まで) 事業報告、
連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類
監査結果報告の件
2. 第79期 (2024年4月1日から2025年3月31日まで) 計算書類
報告の件

◆ 売上高:

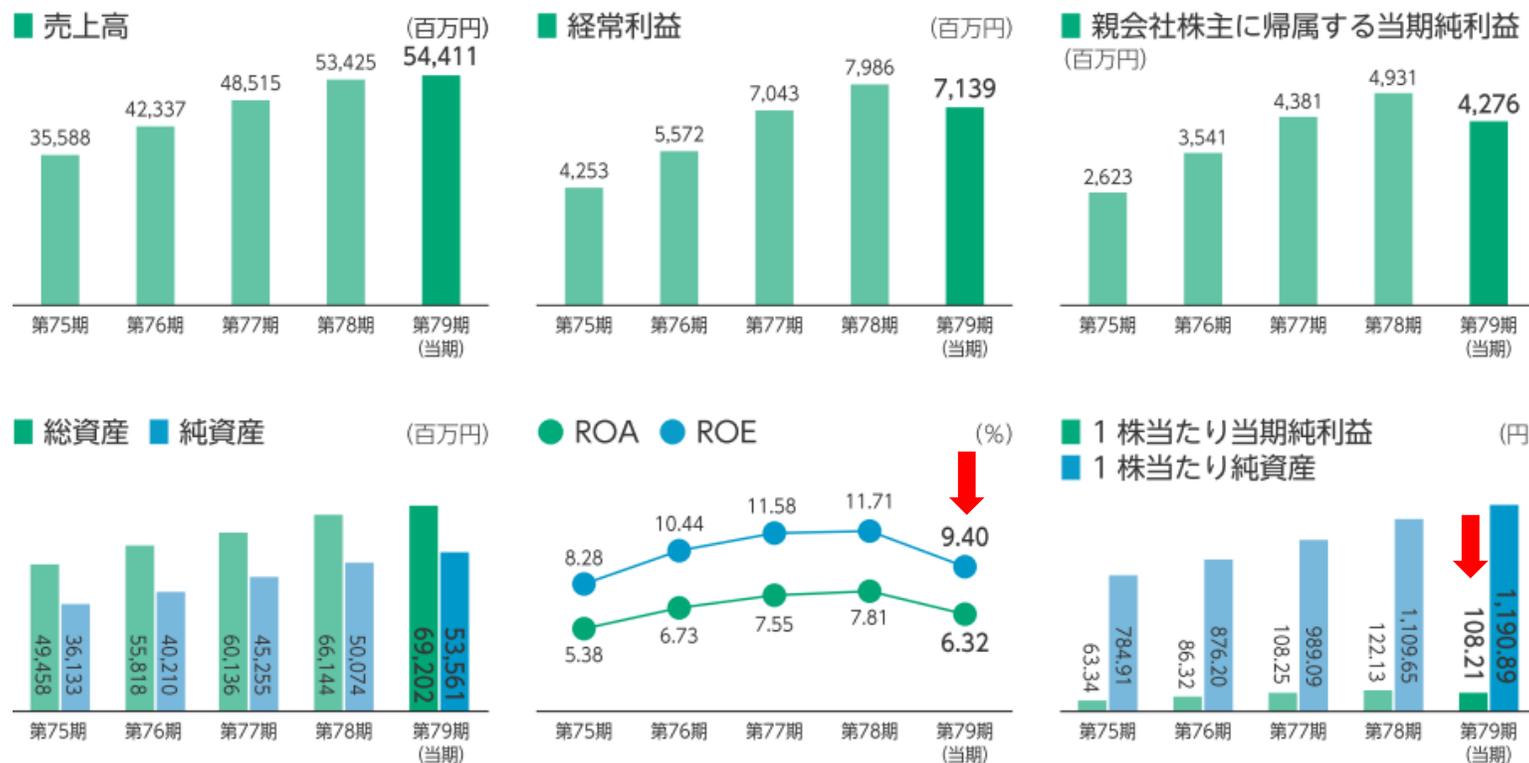
- ・昨年に続き**1926年創業以来の過去最高実績を実現**。主に海外市場が牽引（為替の影響額:プラス約21.2億円）
- ・欧州の自動車補修市場向けスプレーガンやアメリカの木工塗装市場を主とした塗装機器、中国SCR社による中国国外への輸出用圧縮機、インド及び日本の汎用小形圧縮機などの販売伸長

◆ 営業利益率:

- ・海外の人件費や国内外における設備投資の伸長に伴う販売管理費の増加により、10.8%へ（前年度対比-0.7P）

◆ ROE:9.40%、1株当たり当期純利益:108.21円

（いずれも、為替差益の減少などに伴う当期純利益の減少による）



◆ 事業の経過及び成果

当連結会計年度における世界経済は、アメリカを中心に雇用や個人消費の堅調さがみられる一方で、欧州や中国では高金利や不動産市場の低迷を背景に回復に地域差が見られました。総じて、金融引き締めや地政学リスクなどの影響も継続しており、設備投資の伸び悩みがみられたことで、世界経済は緩やかな回復にとどまりました。日本経済においては、賃上げの浸透や物価上昇の一服感が個人消費の回復を下支えしましたが、世界経済の減速により、輸出や設備投資は伸び悩みました。企業業績や雇用環境は総じて堅調に推移した一方で、日銀の金融政策動向や為替変動などの影響もあり、先行き不透明感が残るものの、全体としては緩やかな回復基調が続きました。

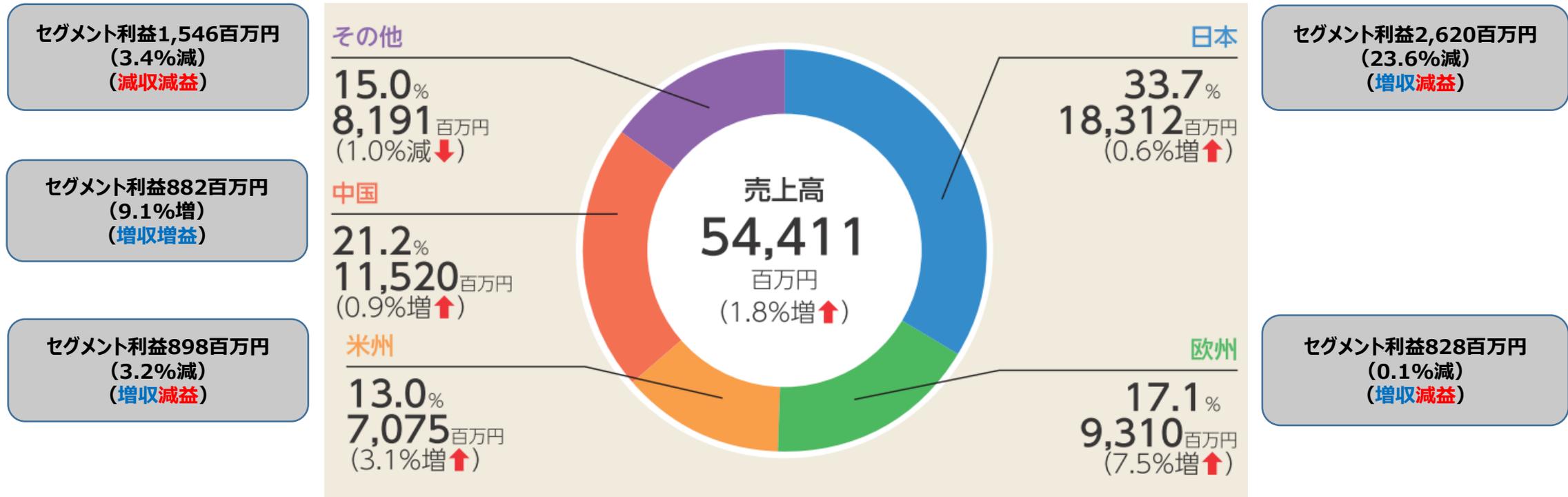
このような状況の中、当連結会計年度の業績は、売上高54,411百万円(前連結会計年度比1.8%増)、営業利益5,903百万円(同4.4%減)、経常利益7,139百万円(同10.6%減)、親会社株主に帰属する当期純利益4,276百万円(同13.3%減)となりました。これらの結果により、当連結会計年度のROEは9.40%(同2.3ポイント減)となり、自己資本比率は67.7%と0.9ポイント上昇しております。

また、当連結会計年度より、「その他」として、コンシューマービジネスやモビリティアフターサービスなどに関する収益を区分いたします。(ご参考値) 事業別の状況

事業区分 (製品区分)	当連結会計年度 2024年4月1日～2025年3月31日			
	連結売上高 (百万円)	前年同期増減率 (%)	連結営業利益 (百万円)	前年同期増減率 (%)
エアエナジー事業	33,609	1.3		
圧縮機	30,787	2.0	3,388	2.8
真空機器	2,822	-5.4		
コーティング事業	20,679	2.7		
塗装機器	17,943	6.6	2,608	-7.5
塗装設備	2,736	-17.1		
その他	123	10.2	-94	-253.1
合計	54,411	1.8	5,903	-4.4



- ◆日本市場販売比率 33.7%、海外市場販売比率 66.3% となりました。
- ◆海外市場は、「その他」を除く全エリアで増収となりました。塗装機器の販売が好調であった「欧州」「米州」や国外へ輸出する圧縮機の販売が堅調であった「中国」にて売上高が伸長しましたが、一方で人件費の増加や為替の影響などに伴い減益となるエリアが増加しました。



欧州・中国市場での圧縮機販売が低調も、販売戦略効果により中国からの輸出及び日本市場の売上が業績を下支え

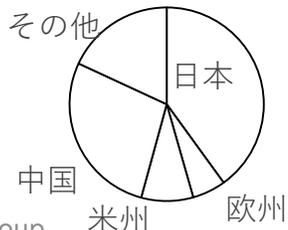
(単位：百万円)

	区分	2024年 3月期	2025年 3月期	前年同期比		概況（矢印は前年同期比）
				増減額	増減率 (%)	
売上高	圧縮機	30,190	30,787	+596	+2.0	(日 本) ↑ 計画的な販促キャンペーンの展開や価格改定の浸透により、下期にかけて売上が回復 ↓ 業界において特に小形圧縮機の出荷台数は減少傾向 (欧 州) ↓ OEM先の需要動向の変化によりオイルフリー圧縮機の売上減少 (中 国) ↓ 国内販売の低迷を輸出販売がカバーしきれず、売上が減少 (その他) ↑ インドや東アジアにおいて小形圧縮機の売上が伸長
	真空機器	2,983	2,822	-161	-5.4	(米 州) ↓ 前期に見られたスポット需要がなく真空ポンプの売上が減少
	合計	33,174	33,609	+434	+1.3	
営業利益	エアエナジー	3,296	3,388	+92	+2.8	営業利益率：10.1%（前年同期比+0.2pts）※1 ↓ 真空ポンプの原価率が上昇 ↑ SCR社※2の調達プロセスの見直しなどにより圧縮機の原価率が改善

（注）今期より、ECサイト販売をはじめとするコンシューマービジネスの収益は、「その他」に区分変更いたしました。前期については、区分変更を反映した遡及処理後の数値を掲載しています

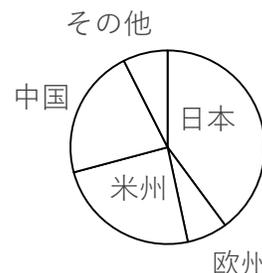
【エリア別売上構成比のイメージと前年同期比※3】

圧縮機（コンプレッサ）



- 日本：○
- 欧州：×
- 米州：○
- 中国：▽
- その他：△

真空機器



- 日本：▽
- 欧州：▽
- 米州：×
- 中国：○
- その他：×

- ※1（製品別利益率のイメージ）
真空機器 > 塗装機器 > 圧縮機 > 塗装設備
- ※2（SCR社）
上海斯克絡圧縮機有限公司：中国の圧縮機製造販売子会社
- ※3（前年同期比）
◎：10%～ ○：3%～10% △：0%～3%
▽：0%～-3% ●：-3%～10% ×：-10%～

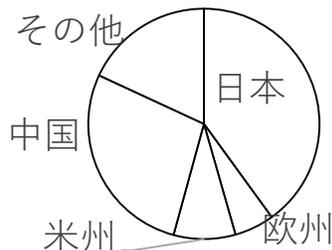
景気減速により、短期施策は十分な効果を得ることができず。注力市場における中長期的な施策は計画通り展開

（単位：百万円）

	区分	2024年 3月期	2025年 3月期	前年同期比		活動概況
				増減額	増減率 (%)	
圧縮機	日本	11,730	12,322	+592	+5.0	（日 本）市場台数規模は縮小も、計画的なキャンペーンの実施等により、需要期を取りこぼすことなくシェアは増加。他、ガス圧縮市場への製品トライアルを開始した。
	欧州	1,937	1,714	-224	-11.5	（欧 州）新たな顧客開拓活動では、短期的な効果を得ることができず。
	米州	2,468	2,662	+194	+7.9	（米 州）車両搭載向け圧縮機の技術向上にむけた、グループパートナーとの技術交流を実施。
	中国	8,557	8,523	-34	-0.4	（中 国）国内向けの低迷を受け、新たな輸出先への開拓活動を継続。
	その他	5,498	5,566	+68	+1.2	（その他）インドでスクリーンプレッサの販売競争力を高めるため、生産体制構築中。タイ・ベトナムでの、新規開拓は一定の成果を上げている。
真空機器	日本	1,154	1,126	-28	-2.4	（日 本）デジタルマーケティングによる、リードの獲得を試験的に実施。
	欧州	193	190	-3	-1.6	（欧 州）新規販売パートナー開拓を現地法人と協働で実施。この活動を継続する。
	米州	789	682	-106	-13.5	（米 州）2次電池市場の用途開発に向け、工程別用途の調査及びプレイヤーの調査を継続。
	中国	565	614	+49	+8.6	（中 国）新たなOEM先との活動を開始。新たな市場のパートナーの開拓を継続。
	その他	283	210	-73	-25.7	（その他）タイにおけるマーケット調査を実施。この活動をアセアンエリアへ広げていく。

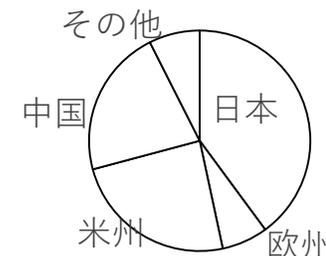
【エリア別売上構成比と構成比変動率】

圧縮機（コンプレッサ）



日 本	: 40.0%	+1.2%
欧 州	: 5.6%	-0.9%
米 州	: 8.7%	+0.5%
中 国	: 28.3%	-0.6%
そ の 他	: 17.4%	-0.2%

真空機器



日 本	: 39.9%	+1.2%
欧 州	: 6.8%	+0.3%
米 州	: 24.2%	-2.3%
中 国	: 21.7%	+2.8%
そ の 他	: 7.4%	-2.1%

製品・事業領域を拡大させるための研究が加速

技術開発の加速

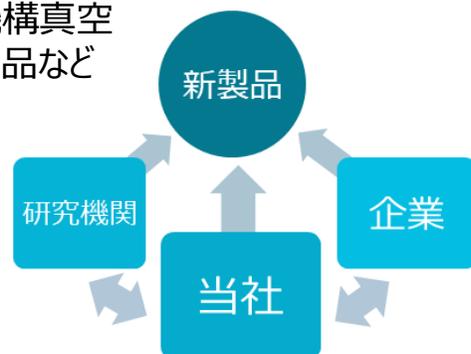
- コンプレッサの圧縮機本体をセットするだけで、基本性能である吐出空気量や電流値、騒音値などを自動かつ連続で試験及び性能測定可能な装置を導入。付加価値を生み出す時間の創出により、スクロールコンプレッサの技術開発が加速。



性能測定装置

共同研究・開発の加速

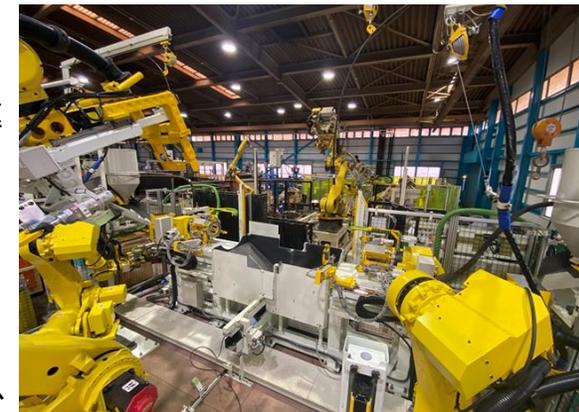
- 国内外の企業や大学との共同研究・開発を更に広げ、新機構圧縮機、新機構真空ポンプ、熱利用機器、環境対応製品など多角的な研究・開発を実施。



生産性向上のための設備投資の継続と生産DXに着手

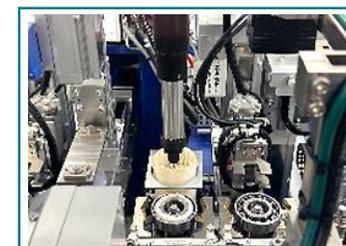
生産DXの推進

- 生産スケジューラーの導入に向け検討を開始 従業員と設備能力を分単位で連動させ、稼働率及び作業効率の向上、部品・仕掛り在庫削減を実現していく。
- トレーサビリティ体系の強化に向け、デジタル化を推進。作業指示、品質記録を手書きの紙媒体からタブレット連携へ変更し、工場内の記録を一元管理。今後、品質記録データを有効活用し、品質や顧客満足度を向上させていく。



設備投資

- スクロールコンプレッサグリス封入工程の自動化 グリス量を一定化し自動記録、トレーサビリティも強化。
- 新型マシニングセンタ導入 スクロールコンプレッサ部品の加工精度向上及び加工時間を約10%削減。
- レシプロコンプレッサの樹脂ピストン加工を内製化 加工品質の安定化とオイルフリーのコア技術を取込み。



自動グリス封入装置



多段パレットマシニングセンタ

2025年度の取り組み

最注力エリアにおける活動

【インド】

▶ ノックダウン生産工場完成と現地生産品の販売開始

→ インドにおいてスクリーコンプレッサの組立工場が完成し、2025年度に販売を開始する。リードタイムの短縮及び原価低減に伴う競争力強化による販売増を計画する。

▶ 商品ラインナップの追加

→ 新たに中～大形機の市場投入することで、新たな市場の獲得を目指す。
→ ニッチ市場の獲得を目的に、マーケティング強化を行っていく。



【アセアン】

▶ 販売及びサービス機能の強化を継続

→ アセアン市場において販売拡大の余地がある中形レンジの製品を中心に、代理店網の構築を行なう。

【日本・中国】

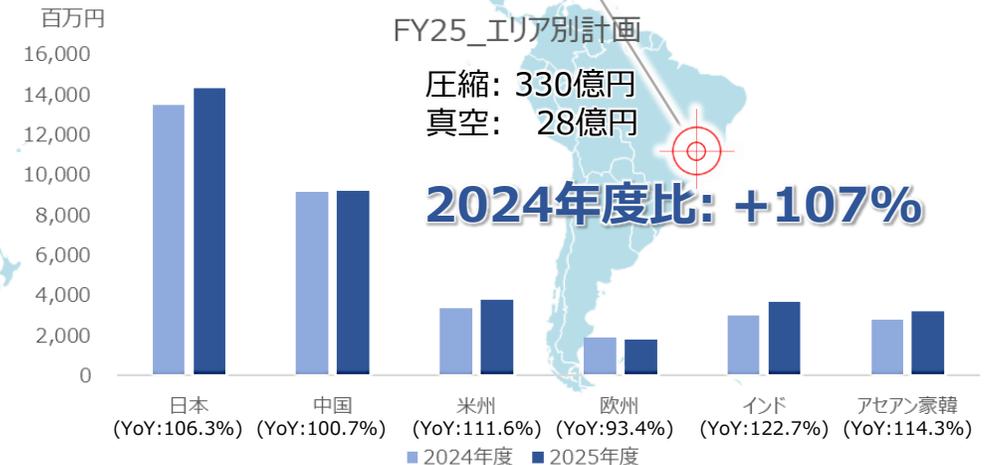
▶ グローバルへの製品開発拠点として投資継続

→ スクロール技術を創出するための投資を継続し、新たな付加価値を与えたスクロール圧縮機を市場投入するべく、製品開発を推進する。
→ 事業領域を拡大するための積極的な産学連携を継続し、研究フェーズから製品開発フェーズへと移行する。

【米州】

▶ 工場増設による生産機能の強化

→ ブラジルの生産工場への投資を実施。今後の販売拡大に向け生産機能の拡充を行なう。



欧州における塗装機器販売が堅調に推移し、全体売上が牽引。木工塗装市場の開拓も進展

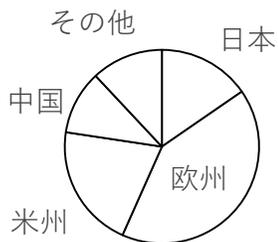
(単位：百万円)

区分	2024年 3月期	2025年 3月期	前年同期比		概況 (矢印は前年同期比)	
			増減額	増減率		
売上高	塗装機器	16,838	17,943	+1,104	+6.6%	(欧 州) ↑ 新製品を中心としたエアブラシの需要が拡大 (欧州・米州) ↑ 自動車補修市場向けスプレーガンや木工市場向け塗装用ユニットの売上が好調に推移
	塗装設備	3,300	2,736	-564	-17.1%	(中 国) ↑ 機械部品や樹脂成形品の生産に関連する塗装設備の納入が完了 (中国以外) ↓ 設備投資動向に伴う期初受注残の不足や受注鈍化により売上が減少
	合計	20,139	20,679	+539	+2.7%	
営業利益	コーティング	2,818	2,608	-210	-7.5%	営業利益率：12.6% (前年同期比 - 1.4pts) ※1 ↓ 売上減少や前期と異なる利益割合の案件有無などに伴う塗装設備の利益率の悪化 ↑ 商品ミックスの変動による原価率の低下

(注) 今期より、塗装時の作業環境を改善する「環境装置」の製品区分を「塗装機器」から「塗装設備」に変更いたしました。加えて、ECサイト販売をはじめとする
 コンシューマービジネス収益は、「その他」に区分変更いたしました。前期については、区分変更を反映した遡及処理後の数値を掲載しています

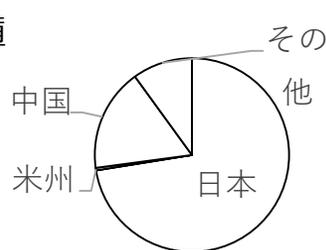
【エリア別売上構成比のイメージと前年同期比※2】

塗装機器



- 日本 : △
- 欧州 : ◎
- 米州 : ○
- 中国 : ●
- その他 : ○

塗装設備



- 日本 : ×
- 欧州 : -
- 米州 : ×
- 中国 : ◎
- その他 : ×

※1 (製品別利益率のイメージ)
 真空機器 > 塗装機器 > 圧縮機 > 塗装設備

※2 (前年同期比)
 ◎ : 10%~ ○ : 3%~10% △ : 0%~3%
 ▽ : 0%~-3% ● : -3%~10% × : -10%~

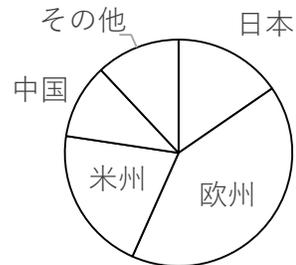
欧州での新製品プロモーション施策が効果を発揮。塗装設備事業の収益改善が急務

（単位：百万円）

	区分	2024年 3月期	2025年 3月期	前年同期比		概況
				増減額	増減率	
塗装機器	日本	2,701	2,759	+58	+2.2%	（日 本） 市場はシュリンク傾向であるもののスプレーガンの当社シェアはアップ。
	欧州	6,532	7,406	+874	+13.4%	（欧 州） 自動車補修市場向けスプレーガンおよびエアブラシ新製品の販売促進施策を実行。
	米州	3,552	3,720	+168	+4.7%	（米 州） 木工塗装市場向け塗装用ユニットおよび自動塗装機用自動ガンの販売が拡大。
	中国	2,055	1,914	-141	-6.9%	（中 国） EV設備向け自動スプレーガンの企画開発、販売促進を実施。
	その他	1,969	2,144	+175	+8.9%	（その他） インド市場への新規販売チャンネル開拓活動を開始。
塗装設備	日本	2,540	1,982	-557	-21.9%	（日 本） 自動車Tier1,2向け案件が少なく不振も25年度、26年度案件を確保。
	欧州	-	-	-	-	（欧 州） -
	米州	34	12	-23	-66.3%	（米 州） メキシコの日系自動車メーカー不振により規模縮小。
	中国	242	470	+228	+94.0%	（中 国） 既存ユーザーの更新需要を獲得し大幅達成。
	その他	536	273	-263	-49.1%	（その他） インド市場に注力市場を定め活動を開始。

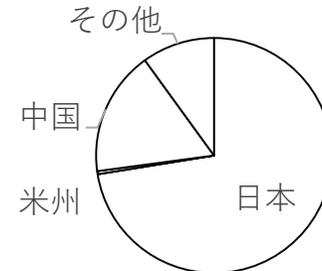
【エリア別売上構成比と構成比変動率】

塗装機器



日本	15.4%	-0.7%
欧州	41.3%	+2.4%
米州	20.7%	-0.4%
中国	10.7%	-1.6%
その他	11.9%	+0.2%

塗装設備



日本	72.5%	-3.3%
欧州	0.0%	±0.0%
米州	0.4%	-0.6%
中国	17.2%	+10.0%
その他	10.0%	-6.0%

事業領域を拡大させるための研究が加速

新事業領域製品の開発

セラミック材料、離型剤、メッキ材料や高粘度材料用の機能性材料向けに当社のコアコンピタンスである霧化技術（気液混相流、静電微粒化）を活用し塗装以外の領域にも製品開発を開始した。

IWATA Technorogy Parkを設立し、最新の加工設備や解析設備を積極的に活用。新しい技術の創出や、試作プロセスの一气通貫によるスピードアップを実現する。



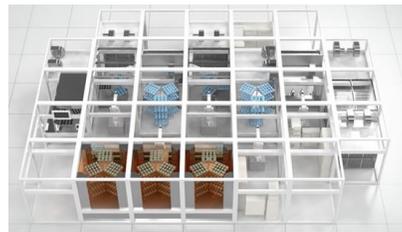
IWATA Technorogy Park

共同研究の拡大

弘前大学、秋田大学、芝浦工業大学、九州工業大学やベンチャー企業との共同研究を通じ、新たな霧化技術の開発、新しい表面処理技術、環境にやさしい樹脂材料の開発、粉殻の再利用、脱炭素に貢献する新素材開発により**コアコンピタンスを強化**。

塗装設備の新製品開発

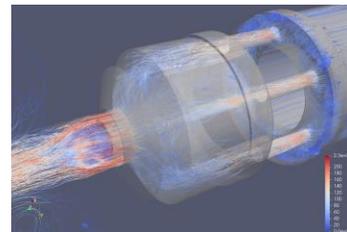
塗装設備事業の改革施策として、新設計コンセプトを採用した「**CUBIC LINE**」を開発。本製品は、脱炭素化の推進に加え、設置スペースを従来比で約50%削減し、工期の大幅短縮を実現できる。これにより環境負荷軽減を図り、お客様の多様なニーズへの対応を実現する。早期の上市を目指す。



生産性向上による競争力アップを図る

生産性向上投資

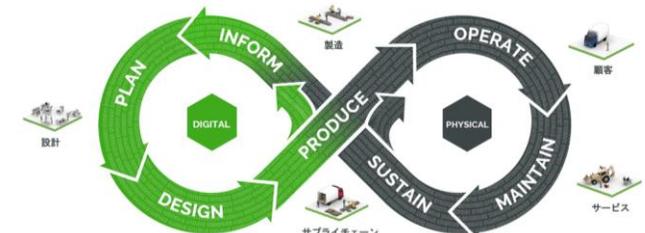
欧米市場の自動車補修市場向けスプレーガンの販売拡大に伴い、イタリアの子会社の生産性向上と生産能力の増強に着手。従来の約2倍の生産能力を目指す。



気液混相流解析モデル

PLMの導入

製品に関する情報を一元管理し、部門を横断してリアルタイムにデータ共有できる体制の構築を開始。これにより、製品開発プロセスの効率化と品質向上、さらにはリードタイムの短縮が可能となる。市場のニーズに即応した魅力ある新製品を、より**迅速に上市できる開発サイクルの実現**を目指す。



2025年度の取り組み

最注力エリアにおける活動

【欧州】

➤ 生産機能の大幅拡大

→ 欧米市場の自動車補修市場の販売拡大に加え、工業市場の販売拡大を加速度的に進めるため、開発および生産能力を大幅に上げる設備投資を行なう。

【東南アジア】

➤ ローカルマーケットへの深耕

→ 日系以外の商流を活用し、現地エンドユーザーへの活動強化を継続。現地普及率が増加しているEV車両製造工場で、塗装機器の採用活動を進めていく。

【インド】

➤ 自動車補修市場向け新規チャネル開拓の推進

→ 成長著しいインド市場において、自動車補修市場への販売チャネル拡大を推進する。

➤ 樹脂市場向け塗装設備の開拓活動を推進

→ ラボ施設を開設し、塗装テストによる引合獲得や市場での認知度向上に注力する。

【日本】

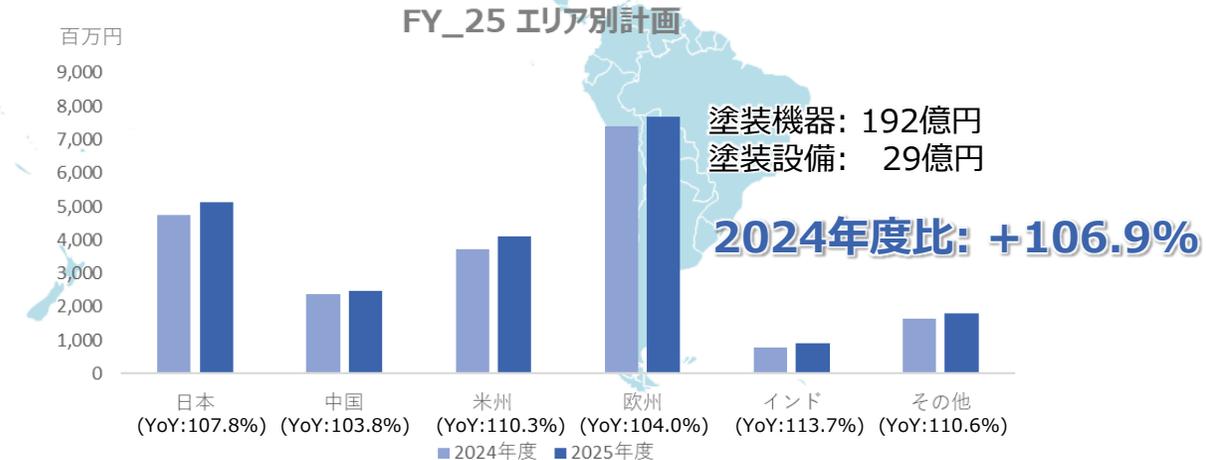
➤ コア技術を活用した機能性材料塗布市場への新製品開発

→ 霧化・粒子コントロール技術を活用した新たな市場への挑戦を加速させるため、製品企画、開発への積極的な投資を行なう。
→ コアコンピタンスである霧化技術を強化するための積極的な研究開発を継続する。

【米州】

➤ 自動車補修市場向け新製品の販売拡大

→ 欧州で好調の自動車補修市場向け新製品販売を北米市場に横展開し、差別化戦略による販売拡大を進める。



営業基本方針



SATISFACTION

お客様満足を
継続的に追求する

お客様に感動を与える製品・サービスを提供し続ける
お客様との接点を絶やさずに絆を深める

STRATEGY

お客様に選ばれ続ける
戦略を実践する

データに基づいた勝ちパターンを構築する
データを活用した戦略のPDCAを循環させる

STYLE

お客様に信頼される
営業スタイルを確立する

お客様の声を大切にし、製品・サービスに活かし続ける
営業品質を高め続けるための教育体系と組織体制を確立する

営業本部の今までの活動とこれからの活動

営業本部の取り組み全体像

主要なシステム

- 受注システム (PartnerPortal)
- 修理システム (CHECKROID)
- 顧客管理システム (Salesforce)
- デジタルマーケティング (HP関連)

SATISFACTION お客様満足の追求

- 市場成長が緩やかなため、既存のお客様を最大限におもてなしすることでリピート受注を目指す……アフターマーケティング戦略
- 各タッチポイント(問合せ・修理対応等)ごとにお客様満足度を定量評価しPDCA改善を狙う

目指すアウトプット

- 製品だけではなく、サービスでもお客様満足を実現する。
- 工場の安定的な稼働とサプライチェーンへの安定発注
- 投資キャッシュの源泉確保

システム投資

データ蓄積 & 大局方針策定

行動変容

STYLE 営業スタイルの構築

- 営業員の育成カリキュラム
- KPIの徹底管理
- サービス体制の再構築

STRATEGY 営業戦略の実践

- アフターサービスに最大注力することでリピート受注を目指す (顧客生涯価値を最大化)
- サービスを競争優位とする事で安値売りをしない

- 凡例
- 24年度注力事項
 - 25年度注力事項

システム投資開始
2019年

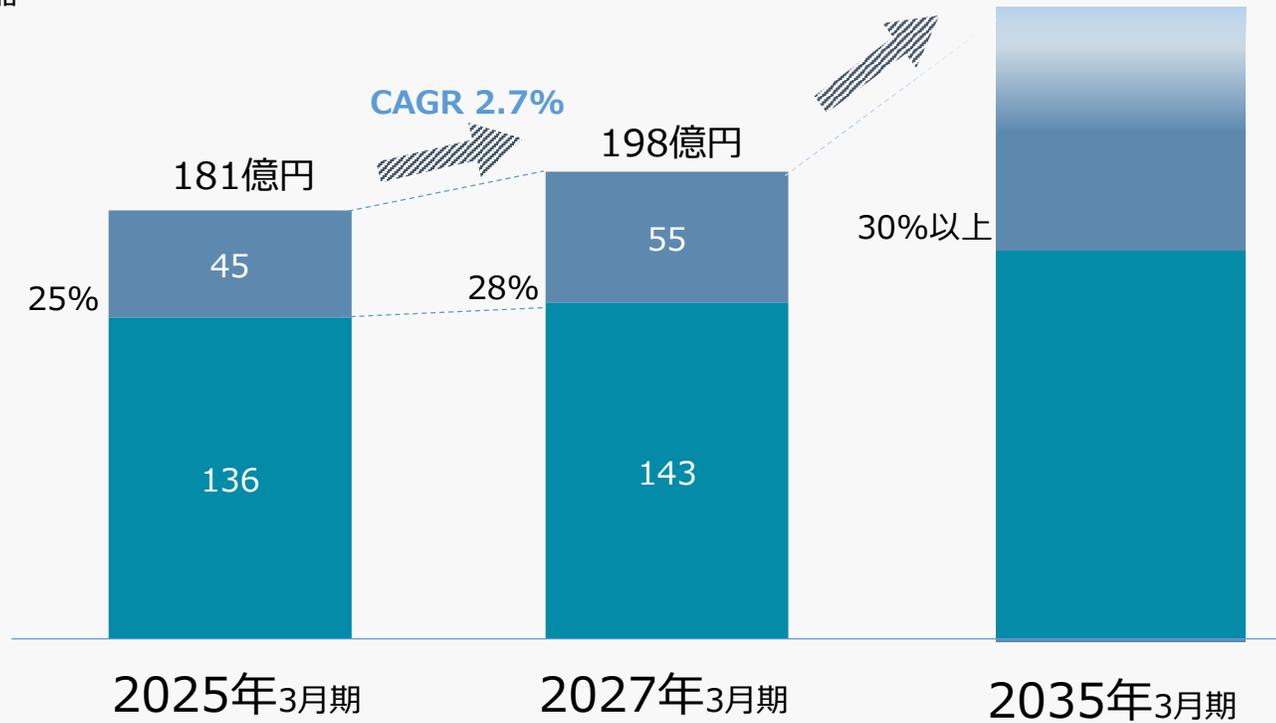
営業改革
2024年

今中計終了
2028年3月

営業本部(国内)売り上げ内訳

■ サービス (部品・修理)
■ 製品

【国内売上目標推移】



中長期的にアフターサービス領域へ注力し、安定した収益基盤の構築を推進する。

A&Cサービス 新商材・新サービスの案内

【新領域の探索】

工場現場の作業において、まだ自動化・省人化の余地がある領域に積極的に挑戦する。

コンプレッサ事業

塗装設備事業

マテハン事業

■ エアーコンプレッサー

迅速丁寧で安心のサポート体制

エアーコンプレッサー

オイルフリー
スクロール
コンプレッサー

静音・低振動・
クリーン性



屋外設置型モータコンプレッサー

ダクト、換気扇が
不要で廃熱はその
まま外気へ。



■ 窒素ガス発生装置／エアドライヤー

最新の人気空圧機器



窒素ガス発生装置

ボンベが不要で、大気から窒素
を生成(分離)する装置。
必要な時に必要な量だけ生成
できます。



高温入気温度タイプ
ヘルプブリードライヤ
(空冷式)

周囲温度が50℃
でも運転可能、
50Hz・60Hz、
同一処理
空気量



■ エアー機器

圧縮空気を見る化する

不純物流出を検知し知らせる

3in1
マルチ・ドライフィルター
+ 空気品質モニター(AIR-MO)



メカシングノズル
「エアー消費量」を抑え、
高効率作業に貢献



■ 塗装設備

これさえあれば始められる!



A&Cサービスの

オールインワン
ロボット塗装システム



■ 塗装ブース／乾燥炉

迅速丁寧で安心のサポート体制



A&Cサービスの
塗装ブース／乾燥炉

ベストコンシェルジュサービス



■ 水洗式塗装ブース処理水用スラッジ処理剤

少量でも浄化効果抜群



かつてない効果を発揮する

水洗式塗装ブース処理水用
スラッジ処理剤「CK001」



■ チュープリフター

運搬作業に革命を起こす!



運搬作業に革命を起こす

楽しく運搬サポートシステム
イージーリフト



■ スマートロボットパレタイザー

パレタイズ界に「二刀流」現る!



パレタイズグルー塗布機能付き

スマートロボット
パレタイザー



■ グルーマスター

ストレッチフィルム削減!!



パレタイズグルー(接着剤)で
荷崩れ防止



A.I.R. コンシューマー事業

【事業ポートフォリオの拡大】

ECサイトでの一般消費者向けの販売と、ホームセンター向け卸販売を行う2つの主軸を持つ事業です。エアブラシ、DIY向けコンプレッサー、エア工具をメインに、ANEST IWATA Racing などのグッズも販売しています。また、ANEST IWATAブランドを除く下記製品のマーケティング、企画、ブランディング、販売を担っています。



アネスト岩田公式オンラインショップ (ECサイト)



コンシューマー ビジネス事業

コンシューマ向け製品の販売と、新たなコンシューマのサービスの提供を企画し、コンシューマ向けビジネスの拡大を行う事業です。



Iwataブランドサイト



SPARMAXブランドサイト

A. I. R. モビリティアフターサービス事業

【事業ポートフォリオの拡大】

自動車の整備、自動車補修、洗車・コーティング、をワンストップで提供します。
 現在、神奈川県寒川町にて「**AUTO TECH BASE湘南**」(仮称)を建設中で、10月1日のオープンを目指して準備を進めています。さらに、海外展開として、フィリピンにも「ANEST IWATA A.I.R. Philippines, Inc.」を立ち上げ、グローバルな視点で同様のサービス提供にも取り組んでいます。

アネスト岩田のお客様が属する業界、自動車補修業界の中に、私たち自身が入っていくという挑戦です。
 私たちが目指しているのは、単に高品質なサービスを提供することではありません。
 業界そのものの地位向上を目指し、そこで得られた知見を本社の製品開発にフィードバックし、新たな製品企画につなげていくことが目的です。

【事業内容】

板金サービス

最新の塗装ブースと高い安全性の作業機器、高度化の進む自動車に対応した電子整備機器により安心安全な確かな保障を付帯した板金塗装サービスを行っています。

塗装

塗料メーカー様とタイアップを行うことにより高難易度化が進む最新の塗色にも対応しています。

洗車

車の塗面を知り尽くした熟練作業者たちによる一段上の洗車をご提供します。細かい部分の洗車も行う事で車の輝きが増していきます。

ガラスコーティング

上質な洗車の後には、高いこだわりを持って選び抜いた特殊なガラスコーティングを施工していきます。



※AUTO TECH BASE湘南 (仮称) イメージ。実際の店舗とはデザインが異なります。

